

みんなちがってみんないい

R2その(2) 指導教諭 木村 栄

昨年の記事を引用しながら、特徴的な発達障害について個々にお話していきたいと思っております。

まず初めにお断りさせていただきたいことがあります。それは「障がい」と「障害」の表記についてです。病名や診断名として使われるものは医学用語として正確に「障害」と表記させていただきます。それ以外の場合は「障がい」と表記していただきますのでご了解ください。

さて、今回は「発達障がい」の一つ、「LD(学習障害)」について基本的なことをお話します。

LDは「Learning Disability(ラーニング ディスアビリティ)」の略で、「学習障害」と訳されています。言葉通り、学習に大きな影響が見られます。

LDで有名なのが、映画俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ミッションインポッシブル」などをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

彼がLDであることは良く知られていて、彼自身もLDであることを公表し、広く理解と支援を得られる活動を行っています。幼いころ、LDが原因で学習ができないこともあっていじめられたこともあったそうです。彼は文字の読み書きが苦手なタイプのLDで、読字障害(ディスレクシア)と書字表出障害(ディスグラフィア)の両方であると言われます。文字が上手く読めないで、映画の台本はスタッフや家族に代読してもらったものを録音し、それを何度も聞きながらセリフを覚えていきます。現在は字も上手に書けるようになったそうですが、デビュー当時は自分のサインもきれいに書けなかったようで、サインの一部が鏡文字(左右逆転した文字)になったものもあったそうです。

LDには他にも、算数の計算や図形が上手く認知できない算数障害(ディスカルキュリア)などもあります。

LDで有名な芸能人は他にもウーピー・ゴールドバーグやオーランド・ブルームなどのハリウッド俳優や、スティーブ・スピルバーグなどの監督など数多くいます。

LDは脳の機能障害によるものと考えられていますが、詳しい説明には至っていません。これは先天性(生まれつき)の障がいですが、事故などによる脳へのダメージで起こる場合もあ

ります。

読字障害は、普段の会話には問題がなく、聞けば意味が理解できるが、字を読んで理解しようとすると、日本語が知らない国の言語に見えてしまうような感覚になったり、似た漢字の区別がつきにくく、どれも同じものに見えたりすることをイメージしてください。

書字障害は、文章を読むことも理解することもできるのに、いざ自分の考えを書いたり、人の話をメモしたりしようとすると、字が分からなくて書けない状況をイメージしてもらえようか。

読字障害や書字障害のある人は、普段話している日本語が、書いたり読んだりするときだけでも困難を伴うことになり、どれだけ練習しても思うように理解が進みません。

算数障害は、計算がなかなか理解できない、数の概念が頭に入らない、同じ図形の見分けがつかないなどをイメージしてください。算数障害の人の中には簡単なお金の計算ができなかったり、数を記憶できなかったり、アルバイトや仕事に支障をきたしている人もいます。

「字の読み書き」「文章理解」は全ての学習の基本ですから、困難さがあればどの教科も十分に習得できず、本来の力を発揮することはできません。

他の発達障がいにも共通することですが、決して本人の努力不足でもありませんし、家庭の躰(しつけ)の問題でもありません。

誰にでも苦手なことはあります。いわば個性だと言えます。LDは他の障がい同様、根本的な脳の改善方法・治療方法は見つかっていません。しかし、個々の特性を理解した上で、適切な学習方法や表出方法などを知ることで、困難さを軽減できる可能性があるのです。そのような意味では、「Learning Disability(学習障害)」というより、「Learning Different(ラーニング ディファレント:学び方の違い)」と捉える方が正確かも知れません。

本校では「すずらん教室」で、個々の児童の特性に合わせた指導を行っています。高学年、中学高校と進むにつれて、困り感は大きくなり、学習の理解にも差が出てきます。お子様のことで気になることがあれば、お気軽にご相談ください。

今回は、ADHDについてお話します。

前号でも、「東小学校は、保護者の方からの相談を受ける体制を整えています」とお伝えしました。でもまだ、「どうしようか」と悩んでいらっしやる方がいるようで、心配しています。週に一度だけですが、スクール・カウンセラーの土山恵先生にカウンセリングを受けることも可能です。保護者の方も児童も受けることができます。学校に直接話しくいような相談でも、適切にアドバイスをしてください。遠慮なくご相談ください。子育てをしているときの悩みは多岐にわたります。困り感は一それぞれ違うのです。「こんなことで相談しては」と尻込みする必要はありません。子どものために、一緒に考えていきましょう。コロナウイルス対応による子どものストレスもたまっていきます。また休校中に昼夜が逆転したり、ゲームから抜け出せなくなったり、子どもも早く、子どものために行動していきましよう。